首都高速道路の大規模更新・修繕及び機能強化に関する技術検討委員会（第 10 回）
議事要旨

日 時: 2025年12月15日（月） 15:00～17:30
場 所: イイノカンファレンスセンター
出 席:

委 員 長	前川 宏一	（横浜国立大学総合学術高等研究院 客員教授）
委 員	砂金 伸治	（東京都立大学大学院都市環境科学研究科 教授）
	石田 哲也	（東京大学大学院工学系研究科 副研究科長 教授）
	小根山 裕之	（東京都立大学大学院都市環境科学研究科 教授）
	白戸 真大	（国土交通省 国土技術政策総合研究所 室長）
	村越 潤	（東京都立大学大学院都市環境科学研究科 教授）
オブザーバー	真田 晃宏	（日本高速道路保有・債務返済機構 理事）

議 事:

1. 荒川湾岸橋の RC 床版調査
2. 羽田トンネルの調査状況
3. 羽田高架橋の調査状況

（主な意見）

1. 荒川湾岸橋の RC 床版調査
   - ひび割れの発生原因の調査と並行して、補修・補強の要否を判断するための検討や補修・補強が必要と判断される場合の具体的な対策方法の検討を進めた方がよい。
2. 羽田トンネルの調査状況
   - 塩化物イオン濃度と鉄筋腐食の関係を把握するため、継続的に調査を行うとともに、変状展開図との関係を整理し、補修・補強・更新検討に活用した方がよい。
   - コア採取ができず塩化物イオン濃度が計測できていない箇所は、損傷が進行していることもあるので注意されたい。
   - 塩化物イオン濃度の測定においては、最新の調査手法も含めて最適な調査方法を検討した方がよい。
   - 鉄筋腐食はかぶりの影響も大きいため、構造物のかぶりの分布をレーダー探査等により把握しておいた方がよい。特に、極端にかぶりが小さく鉄筋腐食が懸念される箇所が無いか把握しておいた方がよい。
3. 羽田高架橋の調査状況
   - コンクリートの圧縮強度が、中央ヒンジを境に傾向が異なっていることについては調査個所の高さの影響が表れている可能性がある。過去に現場打ちコンクリートにおいて高さ方向に水セメント比が異なっていた事例があり、これに起因している可能性があるため参考にされたい。
   - 交通運用の切替えに伴う交通影響の検討については、検討に時間を要することが想定されることから、交通影響検討のスケジュールを事業工程に含め検討時期を明確にした方がよい。

以 上